

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会											
事業所名	静岡市 清水区（飯田庵原）地域包括支援センター			職員	配置人数(定員： 7人)(9／1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	セントケア中部株式会社				主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	2人	その他
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題											
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。											

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回		2回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会開催時点)	1回	(第3回部会開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	2回		3回	

(第2回運営部会)			(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
機関広報誌などによる包括周知 ・包括の活動や業務内容の周知をはかるための包括だよりを年3回発行。 ・S型デイや介護予防講座で認知症予防・口腔ケア・楽しみながらできる運動や介護サービス導入の流れなど周知。 ・昨年全戸配布した「災害チェックリスト」について活用の確認を行いながら、再度の防災の意識を持ってもらう。	・包括だより(7月動脈硬化、10月白内障)にて介護予防と活動を報告。住所、電話番号と地図を大きめに表示。 ・S型デイ(飯田地区12、庵原地区7)、居場所、でんでん体操、介護予防講座参加時に、紙芝居や介護予防チラシを用いて時間がある時に一人で簡単に楽しく行える指や舌の運動を紹介している。	・包括だよりについて、回覧しているが高齢者のどのくらいの方が見ているのか把握しているか、分析するのは必要ではないか。	・包括だより(2月詐欺予防)と包括活動報告を発行し回覧。年3回達成。 ・S型デイ19か所、居場所1か所に参加し介護予防や包括業務説明。でんでん体操1か所に参加。 ・S型デイ参加時、防災への備え(災害チェックリストの活用など)の意識づけを行った。	・S型デイで包括だよりや前年度全戸配布した災害チェックリスト活用について確認した所、見ている人の方が少ない。回覧をみてもらうよう呼びかける。 ・前年度は介護予防講座(骨盤底筋体操など)やでんでん体操にの複数会場に参加している。来年度地域活動に積極的に参加する。 ・防災への意識づくりは次年度も継続する。
認知症について幅広い年代に理解を広げる。 ・いいだ祭り、庵原祭りに参加し、成人と未成年に分けて認知症高齢者についてどれだけ知っているかアンケートを予定。 ・小中学生の認知症理解の状況把握、小学校の福祉授業に参加しS型デイサービスとの交流を図るまへの小学生に高齢者の良い所、大変な所、接し方について講義。クイズを交えて楽しみながら高齢者について考えてもらう。	飯田東小学校4年生、庵原小学校5年生に高齢者との接し方の講義を行う。両校とも高齢者全般の話であったため、認知症高齢者に特化した認知症サポーター養成講座への展開を提案している(昨年社協とともに提案をしたが開催の依頼はなかった)	・認知症サポーター養成講座については、地域の支えあい交流、自治会と連携して、提案してはどうか。 静岡市の講座でも地域支えあい人材養成講座があるので地域の人材を育成し、支えあっていくと言うところでも自治会と一緒に進めてみては。	・いいだ祭り、庵原まつりに参加し認知症や高齢者への理解や認識についてのアンケート実施。回答者にはお菓子和包括業務が分かるチラシを配布。 ・2つの小学校にて福祉授業で高齢者のすばらしい所、高齢者へのふれあい方をS型デイサービス交流前の小学生に授業開催。	・前年度は3小学校全てで福祉授業を行っている。カリキュラムは学年担当が決められているため毎年呼ばれる訳ではないが、認知症サポーター養成講座を含め、社会福祉協議会と連携を図りながら次年度も福祉授業参加をアピールする。 ・地域の大きなまつりに参加し包括は何をする所なのかを分かりやすいチラシを使い周知をはかっていく。
介護者家族の会(いちごの会) コロナ禍で集合形式での開催は数年中止していたが、昨年度から再開。昨年度「難聴」「VR認知症体験」ミニ研修と交流会を実施。10年以上続いている会であり、介護で困っている方の軽減がはかれる場として継続して実施。	・5/23に第1回交流会開催。前年度のミニ研修に興味を持たれた民生委員の参加が増えてきていたが、当日、民生委員の集まりと重なり民生委員の参加無し。日程決定前に情報収集が大事であると認識。来年1月に2回目の交流会を予定。介護者の悩み事相談の場として継続していく様、参加者全員が言いたい事が言え参加した事で負担軽減が図れる会になるよう進行を考えて行う。	・いちごの会の開催について、どのくらいの方が来ているのか。 どのように開催しているのか。 介護者家族の会も交流会形式で行っているが、参考にしたい。	・1/23に第2回交流会開催。前半は軽度認知症に関しての勉強会開催。前年度より民生委員の参加が増えてきている。前回は民生委員の全体会合と重なってしまい民生委員参加は0となったため、開催日決定時には他のイベントが無いか確認を行い決定する。	・当日用事ができて欠席される介護人の方が毎回のようになり数年前、参加3名となった会もあったが、徐々に人数が増え第2回は8名の参加予定となるが介護の勉強をしたいという方の参加が多い。実際に介護に悩んでいる介護者に参加していただけの呼びかけを来年度は行っていく。

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会											
事業所名	静岡市清水区（有度）地域包括支援センター		職員	配置人数（定員： 7人）（9／1現在） ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人恵和会			主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	4人	その他	1人
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題											
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。											

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		3回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	0回	(第2回部会開催時点)	0回	(第3回部会開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回		1回	

(第2回運営部会)			(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 圏域の医療・介護・福祉関係者と地域包括の連携強化	現在、内容等を検討中 権利侵害等を含む事例を通じて、医療・介護・福祉関係者と連携強化を図りたい。早期発見早期介入ができる体制にしていきたい。	虐待に気付く視点はどのようなものかということや、気づいた後にどのように市に繋がっていくかということ、会議の中で、関係機関で共有すると良いと思う。	12月13日に「自宅ですっとミーティング」を開催。医療・介護・福祉関係者約50名のに出席いただいた。虐待の研修会と虐待事例を使ったグループワークを行ない、虐待対応と養護者支援の大切さを共有と関係者間の顔の見える関係作りを行ない、深めることができた。	良かった点：関係機関との顔の見える関係の足がかりになり、出席者からもこのような機会と連携の重要性の共有、今後もこのような会議開催の必要性が声として挙がった点。 課題：もっと大勢の方と交流すること。 次年度展望：今回出席いただけた方との日頃の関係作りと、今回不参加だった方々との連携を図ることを進めていきたい。
2 子供から大人世代まで認知症等高齢者の理解を深める	7/4に圏域小学校4年生に対して福祉教育として高齢者の特徴・認知症と認知症高齢者への対応方法について授業を圏域民生委員やS型ボランティアと協働し行なった。 7/17圏域民生委員(約40名)向けに高齢者の特徴や認知症とその対応についての研修会を行なった。	・重点項目の中身をPDCA方式で記入してほしい。 ・以前発表があった「社会資源マップ」の作成についてはどうなっているか？そのようなマップがあれば、災害時にも役立つと思う。(ex. どのデイサービスが再開しているか)市全体でもあると良いと思うが、有度で主導的にやってもらえたら。	子供向けには7/4の福祉教育、7/17民生委員、11/2には単位自治会長と地区社協の方に認知症サポーター養成講座と認知症徘徊訓練を行なった。	良かった点：子供から大人までの幅広い世代へ研修等を使った啓発活動を行なうことができたことと、認知症高齢者への具体的な対応方法も訓練することができたこと。 課題：もっと大勢の方に認知症の理解を進めること。 次年度展望：新たな機関や人たちへ啓発の場を作ること。
3 総合相談への対応力の向上	①相談対応中のケースで課題が複数あるケースや権利擁護の課題が隠れているケース等について、検討と今後の対応方法をロールプレイの手法を使い実践に即した検討等を行なっている(最低月1回) ②①について実施した結果、センター内での情報と対応方法の共有を図っている。	・事業の結果を見える化してほしい。部会シートのみではなく、別紙で分かりやすいものにまとめてもらえると、他の包括の人も分かりやすいと思う。	①独居、親族の支援困難・ペット・自宅が売却される等が重なったケースの支援等の複数の課題のあるケースを使った検討等を月1回行なった。新人等経験の浅い職員には個別に勉強会を行ない、対応能力向上を図った。 ②センター内の情報と対応方法を共有し、対応力の向上を図った。	良かった点：新人等経験の浅い職員へ教えることで、中堅以上の職員の行動等が変化したこと。 課題：職員によって知識量とコミュニケーション力の違いから、相談対応に違いが出ること。 次年度展望：職員個別の課題を包括職員全員で把握し、対応力の向上を図っていく。

令和6年度 清水地域包括支援センター運営部会										
事業所名	静岡市清水区（ 両河内 ）地域包括支援セン		職員	配置人数(定員： 3 人)(9／1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 花園会			主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	1人	その他
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題										
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。										

【地域ケア会議実施状況】	① 自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回	2回
	② ケース対応型地域ケア個別会議	1回	1回
	③ 地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	回	1回

(第2回運営部会)			(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 フレイル(オーラルフレイル)予防の啓発活動に取り組む	自法人の歯科衛生士と管理栄養士に協力して貰い、S型デイサービスの会場でオーラルフレイル予防と食生活の重要性について話をした。現在まで2会場で開催したが、年度内にあと3回開催する予定である。また8月の広報紙(夏号)にもオーラルフレイル予防の重要性について説明した記事を掲載した。	年度内に5回開催とある。人材が充実しているおかげもあるが、良い取り組みだと思う。	9月以降も自法人の歯科衛生士と管理栄養に協力して貰い、S型デイサービスの会場をまわり、オーラルフレイルの予防と食生活の重要性について話をした。現在まで4会場で開催しており、年度内にあと1回開催する予定。また今年度は保健センターからの依頼で、75歳以上の方で、2年間病院と歯科医院の受診歴が無く、特定検診も未受診という方のお宅を訪問し、実態把握に動めた。	オーラルフレイルの予防に関する取り組みについては、どの会場においても好評だったので、来年度も引き続き行っていきたいと考えている。
2 関係機関や地域の方々にも協力して貰いながら、地域全体で認知症の方を見守れる体制を構築する。	地区社協や民児協の定例会に参加したり、圏域内の商店や自主運行バスの事業所を廻り、見守り活動への協力を依頼した。特に協力を希望したい民児協については、定例会で認知症と虐待の関連について話をした。	取り組みの結果を見えるかして欲しい。別の書面で提示して欲しい。	12月に両河内地区の事業所連絡会を開催し、地域全体で認知症の方を見守れる体制を構築する取り組みへの協力を依頼し、了解を頂くことが出来た。また1月には、地域の方を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、ここでも見守り体制構築への協力を呼び掛けた。	今年度中に見守り体制を構築することは難しいと思うが、自法人以外の事業所も包括の活動に理解を示し、協力的であることに加え、認知症サポーター養成講座も非常に好評だったので、来年度も引き続き、この取り組みを行っていききたいと考えている。
3 困った時に簡単に相談できるよう、包括の役割と活動の周知を図る。	今年度も前年度と同様広報紙を全戸回覧し、包括の活動周知に務めている。現在まで2回発行しているので、年度内にあと2回発行する予定である。また今年度も小学校の福祉教育に参加したが、今年度は児童と一緒に圏域内の福祉マップを作成する予定である。	インターネット等を活用し、周知を図ってみたいはどうか？	広報紙は、エンディングノートの周知を図る為のモノを含めると、現在まで4回発行しており、自治会を通して全戸回覧しているが、年度内にあと1回発行する予定となっている。また今年度は、小学4年生と一緒に両河内地区の福祉マップを作ろうと試みたが、取り組みを始めるのが遅かったことあり、現在作成中である。	広報紙に関しては、広報紙を見た方からおむつバンクへの問い合わせ等が有ったこともあり、来年度も引き続き行っていきたいと考えている。また福祉マップに関する取り組みについても、小学校と協力しながら来年度も引き続きこの取り組みを行い、完成させたいと考えている。

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会											
事業所名	静岡市清水区(岡船越)地域包括支援センター			職員	配置人数(定員: 5 人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 恵和会				主任介護支援専門員	2人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。											

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回	3回
	②ケース対応型地域ケア個別会議	回 (第2回部会開催時点)	2回 (第3回部会開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	回	回

(第2回運営部会)			(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1地域活動に参加し、介護予防の情報を発信する。	S型をはじめ、地域の活動にできる限り参加をしている。6月には地域の集いにおいて、エンディングノートについての講話を行い、S型では健康状態の見える化で介護予防につなげる試みをした。 ボランティア勉強会等、地域から情報発信の機会をいただいているので、地域に必要な情報を聞きながら提供していきたい。	(中村委員)エンディングノートについて、地域のつどいで紹介しているが、これを市が中心になって推進している中、こうしたことを他の包括でしているとの話を聞いてない。住民の反応はどうか？今後広められることができるのか？	11月にはボランティア勉強会で『介護保険でできることできないこと』について講話を行なった。 毎月開催される地域の会議等でも事例を交え、介護予防等の情報を発信している。 認知症カフェではイベント等の機会に健康や認知症についての話をしている。	これまで、足を運び地域活動に参加することを重ねてきた結果、地域から依頼され、情報発信する機会を多くいただいている。 総合相談や介護予防から抽出される地域の課題について多機関や団体と共有を図ってきたい。
2関係者の顔の見える関係を強化し、互いの役割を理解できる。	11月に地域で活動している方たちの『顔の見える関係づくり会議』が予定されている。事前会議から参加し、包括の役割等を伝えている。また、昨年からの課題である男性の地域活動参加について共に検討している。 圏域の金融機関へチラシの配置をお願いしながら、包括支援センターの周知を図った。	(佐々木委員)今年度の介護報酬の引き下げで10月より最低賃金が上がっている。介護サービス事業所が衰退していく予想がされる中で行政や医療機関で介護に関わる相談の件数が増加すると思われ、岡船越圏域ではその傾向が顕著になる。医療機関の先生方の高齢化等々があり、顔の見える関係づくり会議、圏域全体で行う会議への参加の幅を広げないとうまくまわらないかもしれない。薬局を含め全体への声掛けが必要。	地域活動の『顔の見える関係作り会議』に参加。互いの活動や各団体の抱える課題の把握に努めた。 2月には岡地区で自宅ですずとミーティングの開催を予定。 ケアマネ連絡会はBCPをテーマに1回開催している。	民生委員、地区社協の各団体と相互に役割を理解し関係の強化を図ることができた。 包括の認知度について圏域内で地域差が感じられるので、働きかけを継続していく。
3ふたつの地区の特性を知り、活かし圏域全体の連携を図る。	今年度は職員の半数が入れ替わり、地域と地域の活動を知ることから始めている。岡地区、船越地区それぞれの特性を多方面から教えていただきながら課題を検討している。 生活支援コーディネーターと連携し、圏域全体の連絡会を2月頃開催したい。	(植野委員)先日の雨で船越地区は避難命令が出た。包括では社協、民生委員等色々な方々と連携を強くして対応することも大事。今、どこの地区もそうだが、防災委員との連携、からみをもっと強くしてもらえるといいのではないか。	圏域全体の連絡会開催について、生活支援コーディネーターと検討を重ねた。結果、小学校区での圏域ケア会議を包括が開催し、岡船越全体の圏域会議を社協で開催予定している(2月末)	ふたつの小学校区での活動を知り、課題も異なる。 引き続き生活支援コーディネーターと協働し、地域のニーズにあわせた連携について検討していく。

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会											
事業所名	静岡市 清水区蒲原由比 地域包括支援センター			職員	配置人数(定員: 6人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会				主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	1.75人	保健師 看護師等	2人	その他
テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題											
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。											

【地域ケア会議実施状況】	① 自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回	4回
	② ケース対応型地域ケア個別会議	1回	1回
	③ 地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回	1回

(第2回運営部会)				(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望	
1 相談窓口としての機能を幅広い世代に周知し相談につながりやすい環境を整える。 アウトリーチとしてシニアクラブでの健康相談の継続や「みんなでLunch」会場へ出張相談に出向き、週末相談の機会を設ける。 地域リハビリとして取組める活動・参加の場の情報を整理し、介護予防の普及・啓発に努める。	包括チラシを作成し医院・薬局・コンビニ等へ配架、掲示を依頼。 シニアクラブでの出張相談を月1〜2回継続。 毎月最終土曜日開催の蒲原地区社協主催の多世代交流目的の「みんなでLunch」会場で5月より出張相談を開始。来場される高齢者へ生活の聞き取りや情報提供、小学生の親子へチラシ配布し若い世代への相談窓口の周知に努めている。 また、9月蒲原東小学校にて高齢者との関わり方について福祉教育に協力する。	1 伴野委員より どういったPR活動が効果的なのか？見えてきた効果はあるのか？と質問があり、10月より総合相談での包括把握経路を聴取・記録していくようにすることにて返答。 瀧委員より 上記のPR活動の効果検証に加えて、若い世代へのPR含めみんなでLunchでの効果検証も確認したい。	10月〜12月新規相談者の包括把握経路としては、相談経験者等からの口コミや関係機関からの紹介が主であった。アウトリーチとしてのシニアクラブ・S型・みんなでLunchへの出張では、参加高齢者の現状把握、ボランティア等関係者から知人や利用者の相談を受付けた。みんなでLunchでは子育て世代へ、小学生への福祉教育は3校実施し窓口や活動紹介を実施している。地域リハビリとして参加できるインフォーマルサービス情報は、収集・整理中。	アウトリーチで把握した相談は、その前後で家族からの相談と重なったり家族が変化に気づき始めるタイミングであることも多く、相談を通じて地域活動と家族と医療・介護サービスの情報をつなげ、見守り体制の構築ができています。チラシによる窓口周知効果は現状認められていないが、総合相談の地域傾向などを確認しながら、出張の場を工夫しこまめなPR(媒体としてのチラシ活用)と相談の把握に努めたい。	
	2 チームオレンジ今宿の活動を元に、認知症になっても参加できる居場所を増やす。	3 伴野委員より 災害についての研修での「備え」と「課題」の結果についての質問があがり、利用者個人への働きかけとその継続が必要であることと、	由比S型デイは各会場で現状対応聞取り。蒲原地区では運営委員会にて各会場の状況を共有。会場に向くことができれば本人の状況に応じた配慮や工夫をがなされ、開催日等を忘れてしまう方へは連絡の工夫やお迎えがなされている会場もあり、そこには「認知症の〇〇さん」ではなく「〇〇さんが認知症が始まった」関係があった。元気な時から活動へ参加・支え合うことのモチベーション向上のための研修を3月に開催予定。	地域の見守り活動で「知り合いである」ことは強みであり、そうした関係性を発揮して支え合う活動がS型デイで成り立っている状況が確認できた。しかし実際の利用者及びボランティアの新規参加はわずかで全体的に縮小傾向になっている。就労期間が延伸し地域のつながりが薄れる傾向が強く、個の価値観により活動の場は多様化するがそのつながりの中で支え合う意識を育てることや参加をすることの自身にもたらされる利益について普及していく必要性を強く感じた。	
	3 災害への備えとして、高齢者個々の災害への備えや自助意識の啓発。 直営ケースの自助・互助意識の向上と本人・家族・関係者と具体的に課題を確認し備えを考える。	「個票」の統一に取り組んでいくことを返答。 小高委員より 自助力のUP、個人が個人を守る意識が高くてよい。 瀧委員より CMの現地での実体験についてや、勉強会から得た学びや情報を、包括間でも共有できる機会があればいいのでは。	直営ケースでは自助として備えるべきことや確認しておくことを伝えながら共に課題を検討している。一人暮らし高齢者について民生委員や家族を交えてサービス担当者会議のタイミングで検討。高齢化が進み助け合う近隣者も同じ不安を抱える高齢者だったり安全な避難経路が定めにくいエリアもあるが、家族の課題認識や近隣関係の確認をすることができた。	災害に関する圏域他事業所の取組みも参考に、住まいのハザードマップの確認や避難場所、備蓄品、支援連絡者などの確認作業を行い自助力UPに努めたが、周辺支援者や避難場所・避難経路が定めにくいエリアなど課題もあり、次年度は必要時周辺住民や民生委員・自治会等を交えた個別の対応検討できる場を設け日常の見守りと合わせ関わりを深めていきたい。	

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会										
事業所名	静岡市清水区（港北）地域包括支援センター		職員	配置人数(定員： 6 人)(9／1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	静岡市社会福祉協議会			主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題										
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。										

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回	4回
	②ケース対応型地域ケア個別会議	7回 (第2回部会開催時点)	12回 (第3回部会開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回	2回

(第2回運営部会)			(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 ○包括の周知 まるけあ通信の発行 出張相談 包括シールの配布 相談経路の把握、集計	通信を(6.8月各1500枚)発行。郵便局や金融機関(8支店舗)、S型デイ(8会場)、居場所(5会場13回)にて出張相談を実施しチラシは160枚配布。出張相談では20名以上が包括を既知。9名の相談を受け付け。チラシを見ての相談は6件。金融機関や郵便局での相談は来客状況をみながら時間を随時調整して開催。	2について 丸山委員： 地域ケア個別会議の開催の回数が多いが課題を見つけたか？ その後の取り組みは？ ○2号利用者が利用したい介護サービスがない。男性の居場所がない ○送迎支援がない 等の課題 取組みとしては、引き続きSCと相談。圏域地域ケア会議を予定。	通信を(6.912.3月各1500枚)発行。郵便局や金融機関(12支店舗20回)、S型デイ(11会場)、居場所(5会場22回)、子育てトーク(2会場21名)、コミュニティまつりにて出張相談を実施しチラシは414枚配布。通信は法人HPにも掲載。出張相談では49名が包括を既知。18名の相談を受け付け。チラシを見ての相談は6件。	金融機関や郵便局の出張相談では来客状況を見ながら細かく時間を調整し、配布数を増やせるよう工夫。また小さくラミネート加工しチラシを作成し、なるべく手に残る形状への変更。法人HPへ通信を掲載するなど、新たな周知方法を検討できた。関係機関や口コミによる包括の把握が多く、あらゆる世代への引き続きの周知活動の継続が必要。
2 ○生活支援コーディネーターと地域課題の共有 や課題解決に向けた取り組み 定例会4回/年 地域課題への取り組み 個別ケースの共有	定例会(5.9月)を実施。地域課題に対する取り組み(アンケート結果の活用、圏域ケア会議開催の検討)を相談。居場所活動の立ち上げ、イベントの企画、活動継続・関わり方を確認。個別ケース対応について、地域ケア個別会議にて対応を検討するなど随時協働している。	伴野委員： 同ケースを複数開催する地域ケア会議のメリットは？ ○困難事例が多いため、回を重ねる事に支援者の顔が見える関係が築け役割分担が決まり連携がとりやすくなっている。 瀧委員：男性はなかなか外に出ていかないなので男性の居場所は難しい	定例会(5.9.1月)を実施。地域課題(第2被保険者の抱える特徴的な課題)に対する取り組みについて圏域ケア会議にて地域住民や専門職を交えた協議内容について検討。CMと民生委員の圏域ケア会議では生活支援コーディネーターと協働し社会資源の情報提供を行い、民生委員、CMのシャドーワークを共有し新たな支え合いの仕組みづくりの必要性を確認する機会を持つことができた。	同法人内に生活支援コーディネーターが所属しているため、個別ケースや事業の展開に応じたタイムリーな協議の場を、定例会以外にも持つことができ、地域へのアプローチ方法等随時調整でき、連携しやすかった。支え合いの仕組みづくりは地域住民を交えた取り組みであり、担当が代わっても取り組みが途絶えないような引継ぎや内容の共有方法等の検討が必要。
3 ○自宅ですつとミーティングにてチームオレンジ活動の実践 チームオレンジ袖師の活動の後方支援 チームオレンジ活動の圏域他地区への水平展開	袖師地区S型ボランティア研修会にて認知症マフを紹介するため、先進的に取り組んでいる地区へ活用方法を学ぶ機会を調整。10月地区社協理事会にて認知症当事者の気持ちになる動画視聴会を開催し認知症理解を深める機会とする予定。江尻、辻地区へチームオレンジ袖師の取り組みを紹介予定。		チームオレンジ袖師は圏域の支え合い会議にて自身の取り組みを他地区へ紹介。10月には地区社協理事会にて認知症当事者の気持ちになる動画視聴会を開催。12月には小学生向けに認知症理解を深めるための伝達講習を実施。2/28には中学生向けに伝達講習を予定。	チームオレンジの活動の後方支援を行い、水平展開やあらゆる世代へのアプローチができています。活動の発展、チーム員のスキルアップが課題と感じ、次年度は、チーム員を対象に、認知症高齢者の支援について、認知症独居高齢者の見守り支援について事例検討を行う予定。

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会											
事業所名	静岡市清水区（高部）地域包括支援センター			職員	配置人数(定員:4人)(9／1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 清水福祉会				主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	2人	その他
テーマ：地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題											
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。											

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		3回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	0回	(第2回部会開催時点)	0回	(第3回部会開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回		1回	

(第2回運営部会)					(第3回運営部会)				
令和6年度重点項目		進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見		事業実績(最終)		良かった点、課題、次年度展望		
1	防災を中心とした勉強会の開催をする。 ①水害等の発生に備えて平時の対応を知る。 ②実際に水害が発生した場合の対応を知る。 の2回開催予定。	第1回は10月開催予定。 第2回は11月～12月開催予定。 台風15号では自力で各種制度を活用できた方と、支援が受けられずに困っていた方がいたため、ケアマネや包括職員など支援者が災害対応について知っておくことの必要性があると判断した。	委員：台風10号の時の避難者は要支援者リストの何人中で何人か。台風発生後に包括としてどう動いたか、課題はあるか。テレビでは独居の高齢者が夜間に雨の中避難するのは難しく、昼間に避難するのがよいと報道されている。		第1回は10月30日に開催し、第2回は3月12日を予定している。 実際にこの地区で災害が発生したときのことを学び、そこから平時の備えについて考える機会としたい。		参加者から、本年度の勉強会で学んだ内容をケアマネジメントにどのように生かしたらいいかを知りたいという話をいただいたことから、来年度につなげたい。		
	民生児童委員協議会との事例検討会を開催する。 毎月参加する民児協定例会でも事例検討をする機会があるが、民生委員側から介護支援専門員との顔の見える関係づくりを希望されたことから、開催予定。	12月開催予定。 事例を通じて、民生委員と介護支援専門員とが互いの役割・機能を知り、互いに繋ぎあう事が出来るよう実施。	包括：要支援者リストは台風15号で浸水した家や高齢で独居の方25名で構成されている。そのうち避難したのは1名だった。包括としては、翌日に電話で確認したり、ケアマネや子どもにも連絡した。生活に支障のあるかたはいなかった。		民生児童委員協議会において事例検討を行うことができた。 民生委員活動のなかで把握した困難事例などについて、情報の共有をすることで相互につながる関係づくりができた。		一方で、民生児童委員協議会との事例検討会に介護支援専門員に参加していただくことができていないことが課題として残った。		
	高部地区版認知症ケアパス(たかべ認知症安心ガイド)の改定と児童向けの作成	今年度は、小学校からの福祉教育の機会が無くなってしまった。児童向けのケアパス作成については、来年度以降の課題となった。	委員：避難されなかった理由を教えてほしい。 包括：夜間に雨が強くなり時間的に遅かった。大丈夫だと思っている人が多い。		今年度は、小学校での福祉教育の機会がなくなってしまった。 また、ケアパスの改訂についても、本年度は(コロナ禍以降、利用者が減少していることから)高部お助け隊とS型デイサービスの広報を行うこととなったため、改訂に至らなかった。		地区社協との話し合いをつうじて、地域に必要なことに優先順位をつけて取り組むことができていると考えている。今年度はケアパスの改訂ができなかったが、来年度以降に協力して取り組んでいきたい。		

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会											
事業所名	静岡市清水区（松原）地域包括支援センター		職員	配置人数（定員： 7 人）（9／1現在） ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	静岡市社会福祉協議会			主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他	1人
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題											
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。											

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		3回
	②ケース対応型地域ケア個別会議	5回	(第2回部会開催時点)	5回 (第3回部会開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回		1回

(第2回運営部会)			(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1重層型対整備事業を視野に入れ、障害者相談支援センターと介護支援専門員との連携強化を図る。 (精神障害者)相談支援センターは一とばるや、(知的障害者)相談支援センターわだつみと、圏域内の介護支援専門員との合同勉強会を、今年度も継続して行い、連携強化を図る。	ケース対応型地域ケア個別会議は、障害支援機関の出席が多く、個別ケースでの連携強化は図れている。 個別ケースで出た課題に対し、圏域内の介護支援専門員と障害支援センターとの合同勉強会で検討できるよう、調整中である。	丸山委員 高齢障害両者の連携は難しいと聞く。どのように進めることができるのか。 包括 個別型の地域会議が障害機関と関係することが多い。その事例を通して、繋がり勉強会も検討している。 中村委員 個別型の地域ケア会議の回数が多いが、他の包括は一人に対して複数回開催であると聞いた。松原はどうか。 包括 1件のみ一人に対して2回開催であり、他は1件ずつである。 瀧委員 配置人数に対して、人員配置が薄いが今後の配置予定はあるのか。 包括 法人が調整を図っている。	障害者相談支援センターわだつみ(知的障害)、は一とばる(精神障害)と、圏域内の介護支援専門員との合同勉強会を1/29に行う予定で、障害相談支援機関と介護支援専門員が、顔の見える関係となるよう働きかけていく。 毎月、民生委員児童委員協議会や地区社協企画委員会へ出席し、事例紹介や関連情報の提供を行った。 郵便局へ出張相談に出向き、詐欺被害の予防、包括や消費生活センターの周知活動を行った。	障害支援機関と介護支援専門員との合同勉強会は、来年度も継続して開催する予定。実際の事例で、直接、相談支援機関と連携する介護支援専門員の数を増やし、今後は、事例を包括が用意するのではなく圏域の介護支援専門員から提供してもらえるようにしていきたい。
2高齢者の権利侵害、虐待や消費者被害の早期発見、予防のための啓発を行う。 包括チラシを、自治会回覧、銀行、薬局、金融機関へ配布し、駒越カレンダーに広告掲載をしてもらう。 昨年度とは別の金融機関にて、出張相談を行い、周知や連携を図る。	民生委員児童委員協議会、地区社協企画委員会へ毎月出席し、事例紹介や関連情報の提供を行っている。 自治会や各機関へのチラシ配布は、準備中。 金融機関への出張相談は、調整中である。			今年度から地区担当制を止め、職員が交代で、4地区の民生委員児童委員協議会地区社協企画委員会へ出席したことで、各地区の特徴や課題を、職員間で共有・検討することができた。 次年度以降も、継続して出席し、金融機関への出張相談も行いたい。
3介護予防支援を行う中で、重度化を防ぎ、地域での課題解決につなげる。 ケース対応型地域ケア個別会議を積極的に開催する。プラン型地域ケア個別会議は、再評価をすることで、ケアマネアや助言者に効果を実感してもらえるよう、働きかける。 事例に共通した課題を見つけ、他機関と共有し、解決策を検討する。	ケース対応型地域ケア個別会議は、今年度5回開催しており、他機関との連携強化を図っている。 プラン型地域ケア会議は、今年度2回開催しており、今年度、残り2回の開催時に、再評価を取り入れる予定である。		プラン型地域ケア会議は、今年度3回開催しており、4回目を2月後半に開催予定である。今年度も、再評価を取り入れ、事例に共通した地域課題を検討してもらうよう、働きかけた。 ケース対応型地域ケア個別会議は5回開催し、他機関との連携強化を図った。	プラン型地域ケア会議にて、地域課題を出席者全員で検討することで、気づきを促すことができた。 ケース対応型地域ケア個別会議を、障害支援機関の協力を得て開催を重ねることで他のケースにおいても連携が図れるようになっている。

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会											
事業所名	静岡市清水区（興津川）地域包括支援センター			職員	配置人数(定員： 5 人)(9／1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 清承会				主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題											
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。											

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		3回
	②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会 開催時点)	3回 (第3回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	2回		4回

(第2回運営部会)			(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 地域ケア会議の開催 地域住民(民生委員・S型ボランティア等)を対象とし、ネットワークの強化、拡充を図る為継続した勉強会、会議の開催を目指す。	6月興津地区S型ボランティアスタッフ研修に参加⇒介護予防・介護保険について講座。 7月興津地区S型ボランティアスタッフ(中町・県団)対象とした地域ケア会議開催⇒施設見学を通し事業所との関係作りに努めた。 8月小島地区民生委員・S型ボランティアスタッフ対象とした地域ケア会議開催⇒認知症についての知識を深めた。 地域の方々の意見を聞き取り、会議内容を検討。また圏域内の施設、事業所等に協力依頼し更なるネットワーク強化に努めていく。	《瀧部会長》 ・自立支援型プラン会議と圏域ケアマネジャーの研修会の同時開催は参加率を上げるためには有益かと思うが、ケアマネジャーの時間的業務に支障はないのか？ ⇒会議開催日程についてはおおよそ2カ月前に情報提供し日程調整を図っている為、業務に支障が無いよう配慮をしている。 同時開催にすることによりプラン会議終了後にケアマネジャーがアドバイザーに個別に相談できる環境、関係性になったことが効果があったのではないかと感じている。	興津地区 S型ボランティアスタッフ、民生委員を対象に施設見学を踏まえた地域ケア会議を7月、11月開催。施設入居の高齢者がどのように生活しているのかを実際に見て頂き、意見交換を行う事ができた。 小島地区 民生委員を対象に認知症高齢者の対応方法について勉強会を行った。実際の介護者の体験談を聞くことで症状や対応について学ぶことができた。次回は3月に介護保険サービスについての勉強会を開催予定。	地域住民、地域支援者を対象とした地域ケア会議を行い、顔の見える関係性作りを行う事により包括の周知にも繋がり相談件数が増えている状況(昨年度上半期と比較し100件増)。今後も地域ケア会議を通しネットワーク強化、拡充を図り、包括への早期相談、早期発見に努めていきたい。 会議の内容については、各会議後のアンケートを参考に開催時期や場所を検討していきたい。
2 介護・認知予防 S型デイサービス訪問回数増回、認知症予防の普及・啓発、「相談しやすい関係性」の構築、多くの世代への包括の啓発活動に努める。	S型デイサービス訪問を、圏域内の施設に依頼。認知症予防のミニ講座やレクリエーションを実施。 認知症カフェの周知活動、まるけあ手帳の紹介(S型ボランティアスタッフに配布)も行い、予防意識を高める活動を実施。 また、子育てトークの会に出向き、若い世代への包括の周知活動を行っている。 ⇒包括についての認知度の低さを感じた。	・包括の認知度の低さについて、特に若年層の低さはどこの包括も感じている事かと思われる。活動実績を重ねることで包括の認知度も効果が現れるときが来ると思うので継続的な活動、支援を行っていただく。	圏域内施設(2事業所)にS型デイサービス訪問を依頼し全15会場を同行訪問した。包括の周知活動、認知症予防のミニ講座やレクリエーションを実施した。また、まるけあ手帳を紹介し、S型ボランティアスタッフに配布。手帳に興味を示した会員からも欲しいとのニーズが聞かれた為、追加配布を行った。	各S型デイサービスへの訪問を前年度の1回から2回に増回したことにより、会員(高齢者本人)からの直接相談を受けることが増えた。今後も継続支援を行っていく。また、当初予定の認知症カフェ周知については、会場の時間の都合により周知には至らなかった。次年度は新たなカフェの周知活動も踏まえ、主催者側とも連携を図り活動を検討予定。
3 圏域内ケアマネジャーと連携し、「自宅でずっとミーティング」への参画、意見交換や情報共有を行い、ネットワーク強化を図る。	自立型プラン会議後に圏域ケアマネジャー研修会を設ける形をとった。今後もプラン会議後の時間で計画し、実施予定。プラン会議の間にもケアマネジャーからの希望を募り研修会を企画していきたい。圏域外のケアマネジャーや小規模多機能ホームにも声をかけ、意見交換・情報共有・ネットワーク強化に努める。 「自宅でずっとミーティング」は来年1月頃開催予定。今後、詳細を詰めていく。		自立型プラン会議後の圏域ケアマネ研修会を5月、11月に開催。各居宅に企画を依頼し、11月は成年後見制度についての勉強会を行った。次回は2月開催を検討中。また、ケアマネ研修会を兼ねた『おじまカフェ』を小島龍津寺で10月に開催。専門職や地域住民も参加し、エンディングノートについて勉強、意見交換をした。「自宅でずっとミーティング」は1月23日開催予定。	今後の圏域ケアマネ研修会の企画は各居宅で当番制としていきたい。『おじまカフェ』は今後も継続して行えるといいが、開催場所として協力が得られるところがあるか模索していきたい。エンディングノートに関心を示す様子があるため、S型デイなどで紹介できると良い。「自宅でずっとミーティング」の小島圏域での開催を検討したい。

令和6年度 清水区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市 清水区（ 港南 ）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 6 人)(9／1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数								
法人名	静岡市清水医師会		主任介護 支援専門員	2人	社会福祉士	4人	保健師 看護師等	1人	その他	人	

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回		3回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	2回	(第2回部会 開催時点)	4回	(第3回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	2回		4回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)			
令和6年度重点項目		進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1	高齢者等の支援が滞らないよう、早期に適切な関係機関と連携する。	・多問題ケースは可視化し包括内協議を行う。支援方針など医師会相談室のスーパーバイズも受けている。 ・勉強会では、虐待ケースと支援の長期化したケースを検証した。結果、経過の共有不足、コミュニケーション不足、支援目標が不明確等職員のスキルの足りなさが確認できた。 ・対象者だけでなく、相談者を含め世帯全体の課題整理のため「なんでもかんでも相談会」につながる連携している。 ・8050世帯では、引きこもりケースの相談が9件あった。精神疾患が疑われる50代の息子は障害者相談支援事業所と連携し受診支援ができた。重層的支援体制整備事業へ相談した40代の息子は、重層会議に至らなかった。しかし包括の働きかけにより現在支援を受けている。 【課題】アセスメント力向上と早期介入の依頼等関係機関との連携が必要。	(伴野委員) ・関係機関とうまく連携できたケースや難しかったケースを資料としてまとめると、他包括も参考になるのではないかと、多問題ケースについてエンディングノートを使うと高齢者本人、家族と話し合うことで、現状から終末まで整理できるのではないかと。ぜひ活用してほしい。 (瀧委員) アセスメント力や相談対応力の向上は難しいと思うが、多問題ケースも今後増えるため、経験を積みながら力を入れて取り組んでほしい。	①医師会相談室との合同勉強会では、法人の強みを活かして医師に参加を依頼、包括業務に関して十分ご理解いただいた。 ②ケース検証を行い、日頃のアセスメント力や対応力の向上に努めたが、介護支援専門員からの相談では、支援の役割分担や聞き取りが不十分などで難航するケースもあった。 ③多問題ケースは、ミーティング時または適宜時間を設け、包括内協議をした。月1回は医師会相談室からのスーパーバイズを受け対応。ケースの課題整理だけでなく、包括の役割の確認もできたが、検証が遅れ気味なこともあった。 ④70代精神疾患で被害妄想により不安が強いケースでは、障害者相談支援事業所に協力を仰ぎ受診同行したことで医師との連携は図れた。しかし、親族への迷惑行為は断続的に続いており、事業所との連携を継続している。 ⑤総合相談の引きこもりケースでは、なんでもかんでも相談会につながる、当事者を支援機関につなぐことができた。	【良かった点】 医師会相談室との合同勉強会において、医師にも参加いただいたことで、ケースの課題・支援方針を共有できた。また他ケースの相談もでき、受診に関することや成年後見制度申立てに必要な診断書作成依頼など円滑な支援につながった。 【課題、次年度展望】 ②より、ケース検証を継続し、実践力(聞き取り・アセスメント・対応力)向上に努める。介護支援専門員の個別支援に関わる際は、役割分担を明確にし、状況に合わせ調整する。 ③④より、多問題ケースは初動を包括内で共有し、関係機関と協働する。相談業務は世帯まるごとの視点で継続する。
	2	高齢者等が地域で孤立せず、問題が深刻にならないよう、平時からの備えを地域住民や関係機関と共有する。	(植野委員) 清水庁舎が津波避難ビル指定解除されると地元住民の不安は大きい。来庁者も多く、地元だけの問題ではなく私たち一人ひとりの問題。確實・安全に避難できる場所を考えてほしい。	①手遅れを防ぐためツール(お薬手帳等)活用の促進を継続。 ②自宅ですべてミーティングを各地区開催。もしもの時(緊急時・災害時)を想定した日頃からの備えについて、消防、警察、金融機関、商店、配食業者、地区役員、医療介護関係者、行政等で意見交換を行った。結果、自助力を高め互助の大切さの周知、孤立を防ぐための時代に則した住民同士の交流や情報共有の在り方が課題としてあがった。	【良かった点】 自宅ですべてミーティングでは多職種の方々と課題を共有できた。その後、金融機関からの相談が増え、認知症の方の見守り依頼もできた。 【課題、次年度展望】①②自宅ですべてであがった課題をもとに緊急時・災害時を想定した日頃からの備えについて、ツールの活用の促進と自助互助の大切さを改めて当事者・地域住民・専門職等に伝える。
	3	地域住民と介護事業所等関係機関との交流を促進し、認知症の理解と対応力向上を目指す。	・シニアクラブで認知症ミニ講座を開催。栄養の大切さや、攻撃的な言動が認知症から生じることを理解できたとの意見が聞かれた。 ・運営推進会議では、グループホームの職員が地区活動へ参加することの橋渡しができた。 ・清水地区では、認知症地域支援推進員が認知症サポーター養成講座と「自分ができる小さなお節介」のグループワークに参加。地域活動で認知症への接し方を活かしたい、介護の専門職とも交流し適切な支援によって、お花見に参加するなど楽しみのある生活が送れることを知って安心したとの意見が聞かれた。 【課題】認知症の理解と見守りの啓発活動と情報提供の継続。	①認知症による被害妄想の相談が増え、当事者の行動パターンに関し、家族の理解を得るまでに時間を要した。 ②R6年10月地域住民向けに認知症に関するアンケートを行った。結果、認知症予防の意識が高く、サポーター養成講座の受講希望も8割近くあった。 ③認知症地域支援推進員が、認知症サポーター養成講座に参加した事業所を「自宅ですべてミーティング」にも参加を依頼。地区役員等に事業所の実情をご理解いただき、災害時等に地域と施設双方で協力ができる話し合いができた。 ④運営推進会議で連携できた地区役員とグループホーム職員が、次年度の地域活動で認知症の啓発を協働で行うことになった。	【良かった点】 地区役員等と事業所職員の交流が図れ、災害時等に協力し合える体制であることが確認できた。またグループホームに入所しても地域とつながりのある生活ができることを地域住民が理解できた。 【課題、次年度展望】①被害妄想の相談が増えたことから、家族や地域住民、関係機関等に向けた、認知症の行動・心理症状や接し方など認知症の理解と、お互いを気にかける地域を目指したい。

令和6年度 地域包括支援センター運営部会報告（清水区）

1 開催日程

	開催年月日	出席委員数	開催場所
第1回	令和6年7月11日	委員8名	清水保健福祉センター3階視聴覚室
第2回	令和6年10月10日	委員8名	清水保健福祉センター3階視聴覚室
第3回	令和7年2月20日	委員8名	清水保健福祉センター3階視聴覚室

2 地域におけるネットワークの活用状況について（特徴的な取り組みなど）

- （1）金融機関において包括のチラシを配置する他、年金支給日には出張相談会を開催し、より効果的な包括の周知が図られている。また、地域の行事や小学校福祉教育の場を活用し、若い世代へも包括を周知している。
- （2）令和4年の台風15号等風水被害を機に地域の自助への関心が高まったことで、平時からの防災意識（避難時に持ち出す物、避難場所の確認、避難するタイミング等）について、自治会やケアマネ等支援者と勉強会を行った。
- （3）認知症について、チームオレンジの活動を取り上げた内容での講座開催や地元の介護事業所職員との協働による周知等、地域の理解をより深める活動を行った。
- （4）地域ケア会議では地域住民と幅広い職種へ参加を呼びかけることで、その地域の特性を踏まえた課題が抽出され検討が行われるとともに、会議を通して地域の連携強化にも繋がっている。

3 今後に向けた課題・意見等

- （1）清水区は特に特殊詐欺被害が多い。詐欺の手法も次々と変化しているので、警察と連携する等して最新情報を地域へ周知するとよい。
- （2）過去の台風による水害から得た教訓を地域住民や関係機関と積極的に共有し、防災における自助・互助の強化から共助の強化へつなげていってほしい。
- （3）介護事業所の撤退や診療所の閉院がある中で、「顔の見える関係」を構築していくために圏域会議は参加者の幅（職種）を一層広げて実施していく必要がある。
- （4）「シズケアかけはし」が活用されていない。関係機関との連携強化という点でも、もっと活用してはどうか。

4 次年度の取組み・地域包括支援センターへの期待等について

- （1）チラシの回覧・配布や地域活動への参加等、包括の周知ではどの方法が効果的か、包括への相談経路の分析・検証を続けていく必要がある。
- （2）掲載する内容によってチラシの配布方法も変えてみるとよい。また、清水区独自のものとして「脳梗塞予防実証実験（通称：SPAFS）」を掲載してもよいのではないか。
- （3）社会資源等の各種情報共有の方法として、デジタルツールの活用を進めてほしい。
- （4）虐待対応において、実際に発生した時にスムーズに対応するためにも、虐待に気づく視点とその後の対応の流れを関係機関で十分に共有してほしい。